

AJU 愛光園だより

～私たちは、誰もが人間としての尊厳が保たれ、安心して共に生きる社会をめざします～



編集者：社会福祉法人 愛光園
本部事務局 愛知県知多郡東浦町緒川東米田3-3番3
TEL 0562-83-9835 FAX 0562-83-4344
URL <http://www.aikouen.jp/> E-mail honbu@aikouen.jp

第141号

「相生20年の節目を迎えて」

高齢福祉事業部長 青山 誠

明けましておめでとうございます。



昨年の4月に高齢福祉事業部に異動となり、はや9か月が過ぎました。

「笑顔の絶えない三方良しの高齢福祉事業部となります」をミッションとして取り組んで参りました。ここでいう「三方良し」とは、利用者様はもちろん、ご家族様、ボランティア様、関係機関様、取引業者様、地域のみな様、そして共に働く職員とその家族の笑顔ということです。現在は全職員が関わり、「わくわく夢プラン」を作成中です。どんな夢が描けるのかとても楽しみにしています。

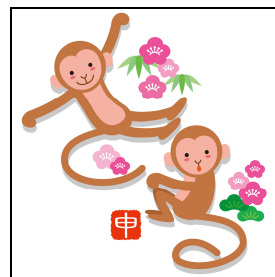
さて介護老人保健施設相生は平成8年に開所し、本年10月をもって丸20年となります。この間で一番大きな変化は、何といても平成12年の介護保険制度導入でしょう。この介護保険制度は、昨年4月に第4次改正が行われました。第3次改正から3年後という異例の早期の見直しとなりましたが、これまで以上に住み慣れた地域での暮らしを重視し、福祉サービスのみに頼らない地域全体で支える仕組みづくりが求められています。また一定以上の所得がある方の自己負担割合の引き上げや、事業

者への介護報酬の引き下げなど、ますます膨らむ社会保障費の抑制の狙いが窺われます。

現在の福祉現場における大きな課題は、人材確保でしょう。昨年、厚生労働省の「新たな福祉サービスのシステム等のあり方検討プロジェクトチーム」のまとめの中で、「福祉サービスにおける生産性向上」と謳っています。福祉現場において馴染みにくい「生産性」という言葉ですが、少ない人数で効率よくサービス提供が行えるような改善が、求められているのでしょうか。介護ロボットの導入や情報のネットワーク化、見守りや体調管理はセンサー等を活用し、記録もタブレットとなるのでしょうか。

これまでの20年とこれから先の変化のスピードは、まったく次元の異なるものとなるのでしょうか。今後も厳しい環境が続くと思います。笑顔の絶えない働きやすい職場を目指し、新しい機器や仕組みの導入も検討し、仕事の効率を高めながらも「人の体温（あたたかみ）」が感じられる支援のあり方は、失ってはならないと思っています。

今年もよろしく願いいたします。



愛光園の権利擁護への取り組み

知多地域障がい者生活支援センターらいふ センター長 葛間雅由

明けましておめでとうございます。

新年早々から「権利擁護」などと堅苦しいお話では、読んでいただけないと困りますので、私的な事からお話しさせていただこうと思います。実はこの原稿依頼をいただいた時に、イギリスのマンチェスターという町にいました。季節外れの観光ではなく、文部科学研究という事業のお手伝いで、ロンドンRNIBの視覚障害者支援とマンチェスターのインクルーシブ教育の実情を見せていただきに行っていました。マンチェスターは産業革命の中心的な町ですし、ロンドンソーシャルワークの原点とも言える都市です。現代でも、イギリスでは障害者差別禁止法が1995年に制定され、さらに2005年に平等法に統合されて障がい者へのハラスメントも法律で規制しているので、権利擁護については日本より10～20年先を行っている事になります。

異国から愛光園を眺めて思ったこと。愛光園の基本理念をあらためて見直してみますと、そこには“私たちは、誰もが人間としての尊厳が保たれ、安心して共に生きる社会をめざします”とあります。この、愛光園の理念はイギリスでも胸を張って通用するという事。そして、愛光園が作りだしてきた、障がいのある仲間たちの地域での暮らしは、「あたりまえに」イギリスと同じだということ強く感じました。(違いは、イギリスの生活のほうがオシャレなのはナゼかな…。また、外国人ボランティアを積極的に受け入れています。)

愛光園の基本理念を実践する事が、私たちの仕事です。障がいのある人達の日々の暮らしを支え、思いに共感し、願いや希望の実現を目指す事は、権利擁護そのものです。日々積み重ねている私たちの実践をより良いものにしようと、平成24年から権利擁護委員会が発足しました。まず最初の取り組みとして、権利擁護に関するアンケートを法人内全職員(402人)に実施しました。平成25年には、アンケート結果をもとにそれぞれの

事業所内で話し合いを行い、結果を権利擁護委員会に持ち寄りました。平成26年には、不適切な対応、あるいは虐待が疑われた時の対応のあり方について事業所ごとに話し合い、対応を共有するためのフロー図を作成しました。そして今年度は、事業所内で疑問が生じた「これって虐待？」事例を持ち寄り意見交換、その結果を事業所に持ち帰り話し合い、その後の対応を委員会に報告していません。

たいへん残念ですが、この様な取り組みをしていても法人内で虐待が起こってしまいました。なぜこんな事が起こるのか、考えてみました。国の調査等では、障がいへの理解や支援スキルの不足が言われています。僕は国の調査と虐待の実態にずれがあるように思います。職場の風通しの悪さ(お互いの仕事への口の出しにくさ、人の出入りのしにくさ)、心理的な余裕のなさ、偏った過重な仕事や孤立が一番のリスクではないでしょうか。

権利擁護と権利侵害は紙一重です。支援している職員が希望を失わない職場であることが何よりも重要です。小さな落胆や失望から、権利侵害は生まれます。それは、それまで積み上げてきた支援を「だいなし」にする事ですし、福祉への自殺行為です。

イギリスのソーシャルワーカーは、自分の仕事に強い誇りを持って働いていて、社会的な地位も高く、自分たちの仕事の重要さを社会に向けてキャンペーンする仕事があり、最新の情報を大学などで常に学んでいました。見学に行った学校の先生からは「ソーシャルワーカーを尊敬しています」と言われ、うらやましくも思いました。そして、ソーシャルワーカーご本人に「貴方は、どんな仕事をしているのですか？」と聞いたところ、しばらく考えて「一番たいへんな人を支援するのが、私たちの仕事です。」と答えられました。その一言で、私たちの仕事は世界で共通するミッションを持っているのだと確信しました。

ちょっとしたご縁で頼まれた視察でしたが、還暦を迎えるにあたって自分の仕事を振り返る機会が持てた事に感謝しています。

『就職トレーニングセンターで権利擁護について議論しました!』

就職トレーニングセンター 藤田芳生

TVや新聞などで福祉事業所の虐待について頻繁に報道されている中、ここ知多圏域においても、障がい者虐待の通報件数が昨年度(H26年4月~H27年3月)22件に対して今年度(H27年4月~8月)15件と昨年度を上回るペースで増え続けています。法人内の権利擁護委員会での取り組みの1つとして、就職トレーニングセンターは虐待を未然に防ぐことを目的とし、「虐待」をテーマにスタッフ全員(6名)にアンケートをとりました。詳細・集計結果は以下のとおりです。

質問内容

問1 業務の中で「これって虐待??」と感じたことはありますか?

問2 問1で《ある》と答えた方・・・内容を具体的に書く
《ない》と答えた方・・・今葛藤していることなどを記入

集計結果

問1 ・ある(0名) ・ない(6名)

問2 ○他害行為に及んでいる利用者に対する行動制限の範囲。
○本人不在時の利用者を話題にした《呼称》などのモラル意識について。
○情緒不安定の利用者についてどう伝えれば理解してもらえるか。
など現在葛藤していることについて9つの記入がありました。

その後、職員会議で、結果報告した際に「あっ、そうだよね~!」「私もここ悩んでた~!」等々の声が聞かれました。今回はこの中から1つをテーマに選択し、ディスカッションを行いました。

テーマ『本人の特性、職業適性からみて向いていないと思われる利用者が《事務職》を希望した時の対応について』

- ・やっぱり本人の気持ちが1番大切。実際やってみるとできるかもしれない。
- ・気持ちが大切であることは分かるが、上手くいかなかった時、周りから「やる前から分かったことじゃないの?」と言われるかもしれない。(スタッフの不安が大きい)
- ・本人が実際にどんな経緯で、事務職のどんなところに興味をもったかしっかりと伺うべき。等々活発な意見がでました。

このディスカッションを通して事業所としてアセスメントなどを行い、本人から希望があった場合は、事務職の業務内容(やりがい・大変なこと)などの説明をした上で最終的に本人に選択していただく。実際やってみて可能性を見出せたとしても、困難だったとしてもそれが本人の気付きになり、次の求職活動に繋がっていく。その過程での本人の精神的なフォローも大切ですが、スタッフも一人で抱え込まないようなフォローを皆で行うことを全体周知する機会になりました。

【十人十色】という言葉もあるように、ご利用者のニーズも多様でそれぞれ違うと思いますが、それはスタッフも同じです。理念など、同じ方向を向いていても、感じること、葛藤することはそれぞれ違います。そういった思いに日頃から寄り添い、聞いていくことがスタッフ同士の相互理解を深め、虐待防止にも繋がっていくと思います。今回のアンケートの実施で、このような【日頃からの心配り】の大切さを改めて感じる機会になりました。これからも【祈りて共に働く】精神で支え合い、繋がりを深めていきたいと思えます。

平成27年度の愛光園だよりも最終号になりました。今年度の初めに紹介した法人愛光園フレッシャーズの皆さん、それぞれの事業所で、がんばってくれています。その中から、代表して3人の方に、充実の1年を振り返っていただきましょう！！



仲間から多くのことを学んだ1年

障がい者活動センター愛光園 飯塚周平

愛光園で働き始めてもうすぐ1年が経ちます。この仕事を始める前は障がいを持った方と関わる機会がとても少なく、仕事を楽しまう、頑張ろうと思う反面、障がいを持った方としっかりと接することができるだろうかという不安もありました。しかし先輩たちが、言葉を話すことができない方が出しているサインや、食事や排泄などの介助のやり方を分かりやすく教えてくれたので、仲間とのコミュニケーションや介助の方法にも慣れていき、仕事に対する不安も小さくなっていきました。それと同時に、この仕事が楽しいと思えることも増えていきました。全体行事や所属しているグループでの外出などでは、普段の活動ではなかなか見ることができない仲間の表情などを見ることもあり、新たな発見をすると同時に、仲間が行事や活動を楽しんでいるということを確認することもできました。

しかし、自分がしたことによって仲間に不快な思いをさせてしまったことや、仲間の怪我に繋がりがねない失敗をしてしまったこともあります。時間が無い中で焦っていたことで確認すべきことを怠ってしまったことや、自分の介助の方法が間違っていたなどの原因がありました。その都度先輩職員から注意や指導などが入り、正しい介助の方法や確認すべきこと等を教わり、自分もそれをしっかりと受け止め2度同じ失敗をしないように心がけています。失敗はできるだけしないほうが良いとは思いますが、これらの失敗から、失敗の中からも学ぶべきことがあると身を持って知ることができました。

来年度からは新たに自分の担当の仲間を

持つことになるので、今まで以上に仲間のことを観察し、仲間のことをよく知ることが心掛けていきたいです。園内での様子だけでなく、ご自宅での様子やその方の生育歴や詳しい特性などを知ることも必要となってくると思います。仲間のことをさらによく知る良い機会だと思うので、頑張っていきたいです。

活動内の動きや準備、食事や排泄の介助、仲間とのコミュニケーションなどは、これまで続けてきた経験を活かして、更に質の良いものにしていきたいと思っています。自分が行事や活動の司会をやることもあると思うので、他の方が司会をしている姿を参考にしてプログラムがスムーズに進むように気を付けて行きたいです。

現在でも新しい仕事や、今まで介助をしたことが無かった仲間の介助を新たに教わることがあり、これからも多くのことを教わっていくと思います。新しい事を知れば知るほど仲間と関わる時間や、関わる仲間も増えていくと思うので、先輩たちの言葉をしっかりと受け止め、これからの自分の行動に反映させていきたいと思っています。



「ありがとう」とは？

高齢事業部 相生入所 本谷悠登

高校時代、部活の顧問がよく「何事にも感謝しなさい。」と言って聞かせてくれました。その当時「感謝」とは口にしてはいたものの、どこか形のないものであり、きれいごとのように思えました。

私は大学4年の就職活動中、企業と福祉施設両方の就職試験を受け続けていました。どちらの道に進めばいいか決めきれず迷っていたからです。

そんな中、当法人の就職試験にて現場実習を受けることになりました。実習中は主にご利用者とのコミュニケーションを中心に行ないました。ご利用者は私の話に熱心に耳を傾けてくれ、私も熱心に耳を傾けました。

会話の度に実習生である私に対しご利用者は「ありがとう。」とおっしゃってくれました。日常の中に感謝の言葉が沢山聞こえてくる素敵な場所だったのです。同時に、そこには支える側、支えられる側に分かれるような環境がないと感じられました。支える人も支えられていて、支えられる人も支えている。目の前の人に対し常に感謝の気持ちを素直に表す、そんな当たり前のようなことが当たり前のように行われていることに深く感動しました。私はここで働きたいと思い、この春から相生で働きはじめました。

働き始めると社会人一年坊主の私には覚える事、考える事があまりにも多すぎ、てんやわんや。そんな私に一所懸命に話しかけてくださるご利用者、ご利用者の体の調子などを丁寧に伝えて下さるご家族、困っているとき質問をすると的確にアドバイスをくれる先輩職員。たくさんの方々のおかげで私は充実した社会人生活を送れているのだと気付かされました。

そんな時に、何度も「ありがとう。」と口にしてきました。口にしたという表現よりも自然に口から出てきたという表現のほうが適当かもしれません。今までは自分自身人に支

えられているという実感無く生活していたものが、社会人となり相生で働くことで沢山の人に支えられながら日々を送っていることを痛感したからこそ、感情が内面から芽生え「ありがとう。」と声になったのではないかと思います。

相生はそんな素敵な言葉が自然と飛び交う素敵な施設なのだ改めて感じました。

今後も、支えながら、支えられていることを感じながら、私に関わっていただいている全ての人に対し感謝の念を抱き「ありがとう。」という感情と言葉を大切にしていきたいと思っています。そして「ありがとう。」が飛び交う素敵な施設の立派な一員であると胸を張っていえるような人間に成長していきます。

顧問の言葉は続く、「感謝できる人間は何事にも謙虚であり、謙虚な人間は努力を怠らない。」



たくさんの人に支えられて・・・

らいふ直接支援 廣瀬未来

あけましておめでとうございます。

去年は生活環境が変わり、らいふ直接支援の職員になり、あっという間の速さで時間が過ぎていきました。慣れないことも多く、たくさんの協力があって過ごしていくことが出来ました。今年もよろしくお願い致します。

ゆっくりと振り返る時間もなく、職員になってから1年が過ぎていこうとしているので、この機会にいろいろと振り返っていきたく思います。



【アルバイト時代】

私は学生のころから、らいふでアルバイトをしていました。はじめのうちは日中一時支援を通じて子ども達と関わっていました。最初は戸惑うこともありましたが、関わっていくうちに「楽しい!」「もっと深く知りたい!」と思うようになり、ヘルパーの資格を取り移動支援も行うようになりました。移動支援では、ご利用者と一対一で外出することが多く、1人の人と関わる時間が増えました。関わる時間が増えた分大変なこともあります。それ以上に楽しいことや元気がもらえることが多く、ますますこの仕事が好きになりました。また、職員が普段からたくさん話しかけてくださり、それも楽しみの一つでした。話しかけてくださるだけでなく、困ったときに的確にアドバイスをくださったりして、相談に乗ってくださることもありました。そしてなにより、楽しそうに仕事をしている姿をみて「私もあんな風に働きたいな～」と憧れをいだきました。そして私もここの職員になりたいと思い、愛光園に就職し職員となりました。

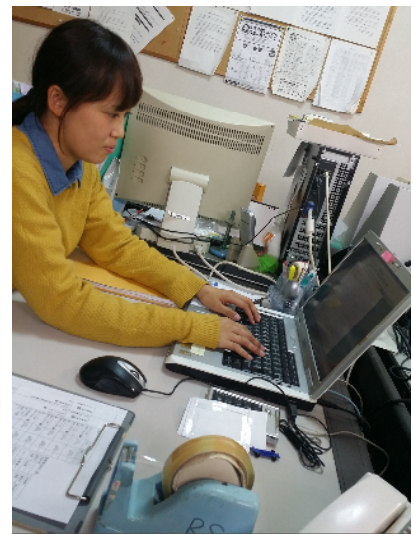
3月の終わりの頃までアルバイトをしていたので、4月1日職員として出勤するのは照れくさい気持ちとわくわくした気持ちがあり、前日はあまり眠れなかったのを今でも覚

えています。

【いま】

今でも、楽しく仕事をさせていただいています。しかし、楽しいだけでは仕事はやっていけないのだと思うようになりました。大変なこともたくさんあります。そんな大変なときに支えてくださるのは、先輩や同期です。話を聞いてもらえるだけで元気がでるし、次も頑張ろうと思えます。それまでは、ご利用者との関わりを一番に大切だと思っていましたが、職員同士の関わりもとても大切で、周りの人のおかげで毎日頑張れるのだと気付きました。

過ごしやすい環境を作ってくださっている先輩となんでも言い合える同期がいることに感謝し、私も周りの人を支えていけるよう仕事をしていきたいです。なかでも、普段かららいふを支えてくださっているサポーター・ヘルパーさんへのフォローを先輩のようにできるようになるのが今の一番の目標です。私がヘルパー時代にたくさん支えていただいて、先輩方の姿を見て愛光園に就職したいと思ったので、私もアルバイトの学生さんに「愛光園で働きたいな～」と思ってもらえるような職員になっていきたいです。



とっておき♪

グループホーム「なないろの家」が昨年8月からスタートし、約半年が経ちました。4名の利用者さんもグループホームの生活に慣れ、のんびりとした雰囲気の中暮らしています。そんな「なないろの家」の暮らしの一コマをご紹介します。



なないろの家では、帰宅後のティータイムが日課になっています。

「コーヒーにする？紅茶がいい？」皆それぞれにあたたかい飲み物で一日の疲れを癒します。

「今日もおつかれさま」

そんな会話が聞こえてきそうです♪



ラスク・ダーシェンカのご紹介

愛知県幸田町のオーガニックパンの老舗『緑と風のダーシェンカ』の人気NO.1のパンを、『ひかりのさとファーム』でラスクに加工しています。素材はすべてこだわりぬいた厳選素材、国産小麦、オーガニックフルーツ、くるみ、天然自家製酵母、薪で焼く石窯パン、保存料、香料などその他の添加物も一切使っていません。

ガリッ！ザクッ！とした食感と自然な味わいがクセになります。

まるごとダーシェンカ 専用ソース付 3000円

ラスクダーシェンカ プレーン 540円

ラスクダーシェンカ ホワイトチョコ 760円

ご注文・お問い合わせは

ネットショップ「ラスク・ダーシェンカ」

<http://ruskdasenka.com> (Yahoo!ショッピング)

又は ひかりのさとファーム TEL 0562-84-4151 ご連絡ください。



第11回 社会福祉法人愛光園実践発表会 開催のご案内

社会福祉法人愛光園 理事長 日高幸子
 ひかりのさとのかい 会長 皿井寿子

多くの皆様からの日頃のご支援に感謝を込めて、今年度も実践発表会を開催させていただきます。私たちが法人の基本理念として掲げている、地域の輪の中で「共に生きる」実践と運動が、日々の取り組みの中でどれだけ追求できているのかを発表させていただきます。

今年度のテーマは「Life～共に考える活動と参加～」としました。Life=生活、人生、命。子どもから高齢者まで、障がいがあってもなくても、私たちに等しく共通の言葉。一人ひとりの、その人らしい「Life」の実現を願っての実践発表会です。事業所からの一方通行になりがちな事例発表をより深めることを目的に、当法人理事の廣瀬治代が発表者だけでなく、ご来場の皆様からのご意見もいただけるよう、ファシリテーターを務めさせていただきます。さらに、長年ご指導をいただいている上田晴男氏を兵庫からお招きし、セッションのまとめと講評をお願いしました。ご来場の皆様と共に、会場が一体となって活発な意見交換をできれば幸いです。

是非、お誘いあわせのうえ、ご参加くださいますようご案内いたします。

テーマ : 『Life～共に考える活動と参加』
 日時 : 2016年2月20日(土)
 13:00～16:00
 場所 : あいち健康の森 プラザホール
 (参加費無料)
 知多郡東浦町大字森岡字源吾山1-1
 TEL : 0562-82-0211
 ※ナビ用ですので、会場へのお電話はご遠慮願います。お問い合わせは下記まで。
 主催 : 社会福祉法人愛光園
 ひかりのさとのかい

発表事業所 : 地域生活支援センターりんくまどか
 介護老人保健施設相生
 ファシリテーター(進行) : 社会福祉法人愛光園 理事 廣瀬治代
 講評 : PASネット理事長 上田晴男
 *申し込み先 : 社会福祉法人愛光園 法人本部
FAX 0562-83-4344
 *お問い合わせは、総務・深谷まで (TEL 0562-83-9835)

第11回 社会福祉法人愛光園 実践発表会 参加申込書

代表者ご連絡先: 氏名 (TEL)

| 所属 | 役職 | 氏名 | フリガナ |
|----|----|----|------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

※手話通訳を希望される場合は、右記に○をつけてください。【手話通訳希望】
 参加申し込みは2016年1月29日(金)までに、FAXにてお申込み下さい。(切り取り不要、この用紙のままで結構です。)

ひかりのさと案内図 JR東海道線大府駅下車、タクシー(15分)が便利です

